

神戸空港の活用策：Part1 「ビジネスジェットの可能性」

2024年3月29日

株式会社T.I.E



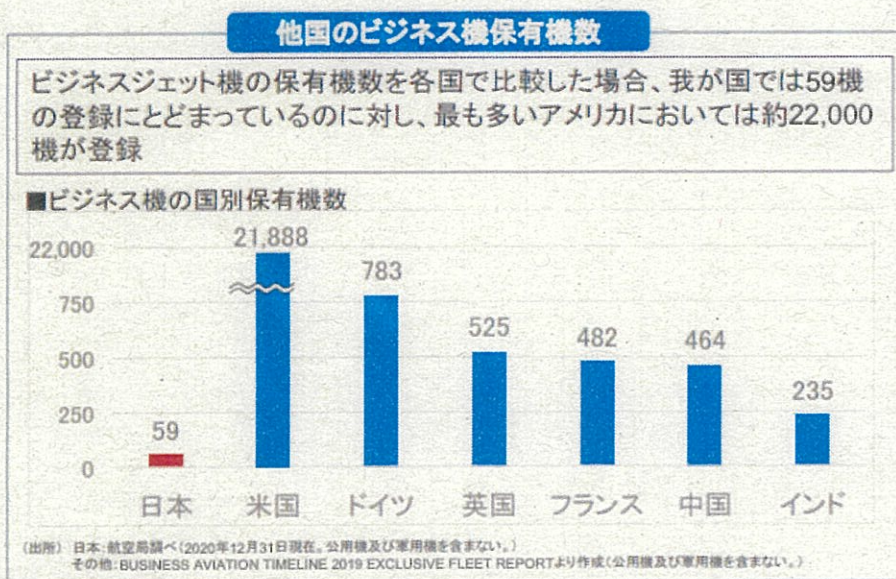
報告内容

- 01 ビジネスジェットに関する状況
- 02 神戸空港の状況
- 03 他の主要空港の状況
- 04 近年の動向
- 05 ビジネスジェット活用の可能性
- 06 提案

ビジネスジェットに関する状況

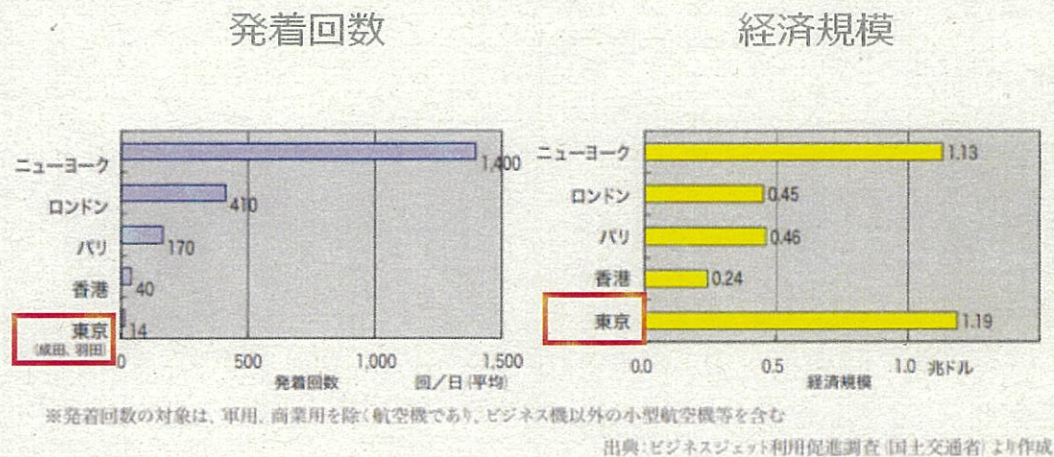
保有機数、発着回数とも日本は少ない

各国のビジネスジェット(以下「BJ」)保有機数



出典: 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/koku/koku_bj1_000026.html

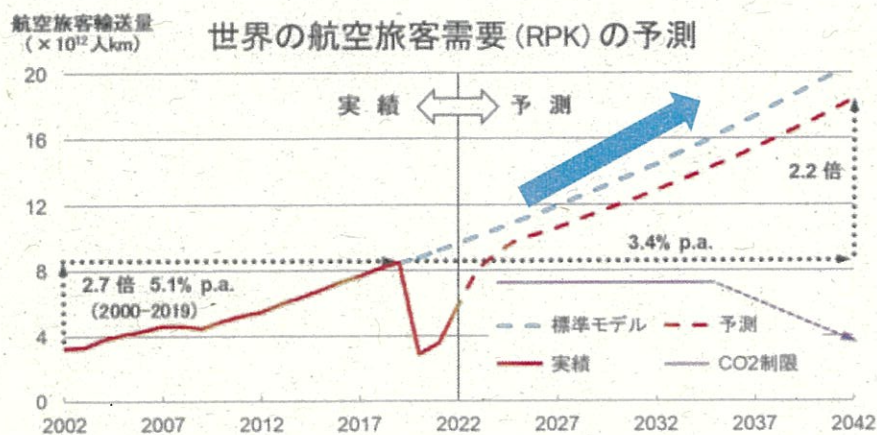
主要都市におけるのBJ発着回数と経済規模



出典: 東京都(首都圏におけるビジネス航空の受入れ体制強化に向けた取組方針)(平成22年11月)
<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/pdf/20kbi100.pdf>

BJの潜在的需要は大きい

航空需要(予測)は右肩上がり



出典：財団法人日本航空機開発協会「令和4年版航空機関連データ」
<http://www.jadc.jp/data/associate/>

BJのメリット.1

有効時間の増大

ビジネスジェットは移動するオフィス。定期旅客便では困難な電話・メール、会議、商談が可能。移動によるビジネスの分断を避けることが可能

BJのメリット.2

プライバシーの確保

定期旅客便と異なり不特定多数の第三者と交わずに搭乗手続等を行うことにより、プライバシー確保が期待

BJのメリット.3

周辺産業の活性化

空港周辺地域においては、ビジネスにおける交流の拡大、周辺のまちづくり、観光が促進されるなど、地域経済の発展に寄与し得る

神戸空港の状況

CIQ*の常設等、BJ受入体制が課題

* C : 税関 Customs、I : 出入国管理 Immigration、Q : 検疫 Quarantine

ヒラタ学園のBJ受入施設も活用



出典：国際ビジネスジェットパンフレット（神戸空港利用街售協議会）
<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/39494/japanese.pdf>

現状の国際プライベートジェットの受入体制

運航計画の届出期間	出国時	出国の3日前まで (※の場合、24時間前まで)
	入国時	入国の14日前まで (※の場合、7日前まで)
受入時間	出国時	7時～23時（運用時間と同じ）
	入国時	平日の8時30分～17時

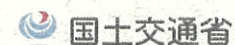
※商用のため緊急止むを得ない事情がある場合

出典：神戸市港湾局資料を元に作成

他の主要空港の状況

BJ専用の動線が整備。プライバシーの確保が充実

主要空港におけるビジネスジェット受入れ環境①



東京国際空港

- 2021年7月に新たに出発・到着動線が分離されたビジネスジェット専用動線を供用開始。
- ビジネスジェット優先スポット数を2スポットに増加したことで、動線を効率的に使用することが可能。
- CIQ施設等も備えた24時間運営の専用動線でプライバシーを確保しながら短時間での出入国が可能。

【専用動線の概要】

- 供用開始:2021年7月
- 運用時間:24時間
- 設備概要:出発・到着分離動線、保安検査場、CIQ施設、入国検疫検査待機スペース、専用待合室(5室)、出発・到着車寄せ



待合ラウンジ



CIQ施設

成田国際空港

- 2012年3月にビジネスジェット専用動線を供用開始。
- 専用動線からビジネスジェット用駐機スポットまで車にて送迎。新ルートを2014年9月に整備し、空港内の移動時間が約16分から約8分に短縮。
- プライバシーとセキュリティを確保し、短時間かつストレスフリーな出入国が可能。
- 空港内に駐機可能な格納庫が存在。

【専用動線の概要】

- 供用開始:2012年3月
- 運用時間:5:00~23:00
- 設備概要:専用出入口、保安検査場、CIQ施設、ラウンジ



ラウンジ

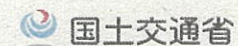


CIQ施設

出典:成田国際空港株式会社HP

24時間の運用体制（成田空港を除く3空港）

主要空港におけるビジネスジェット受入れ環境②



中部国際空港

- 2008年12月より、プライバシーが確保された専用動線により、迅速な出入国手続きが可能。
- 空港内にはビジネスジェット専用の格納庫を備え、滞在中の駐機や、機体整備にも対応可能。（専用格納庫は2009年9月から供用開始。）

【専用動線の概要】

- 供用開始：2008年12月
- 運用時間：24時間
- 設備概要：保安検査場、CIQ施設、VIPラウンジ（ターミナル併設）

関西国際空港

- 2018年6月には、第2ターミナルビルの一部にビジネスジェット専用動線がオープン。これにより、スムーズな出入国手続きとプライバシー性の高いサービスが提供可能。

【専用動線の概要】

- 供用開始：2018年6月
- 運用時間：24時間
- 設備概要：保安検査場、CIQ施設、受付カウンター、専用の乗降場所・駐車場、待合ラウンジ、会議室



VIPラウンジ



専用格納庫

出典：中部国際空港株式会社HP



エントランス



待合ラウンジ

出典：関西エアポート株式会社

出典：国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/koku/content/001446649.pdf>

(海外) ファーンボロー空港 (ロンドン)

* Fixed Base Operator

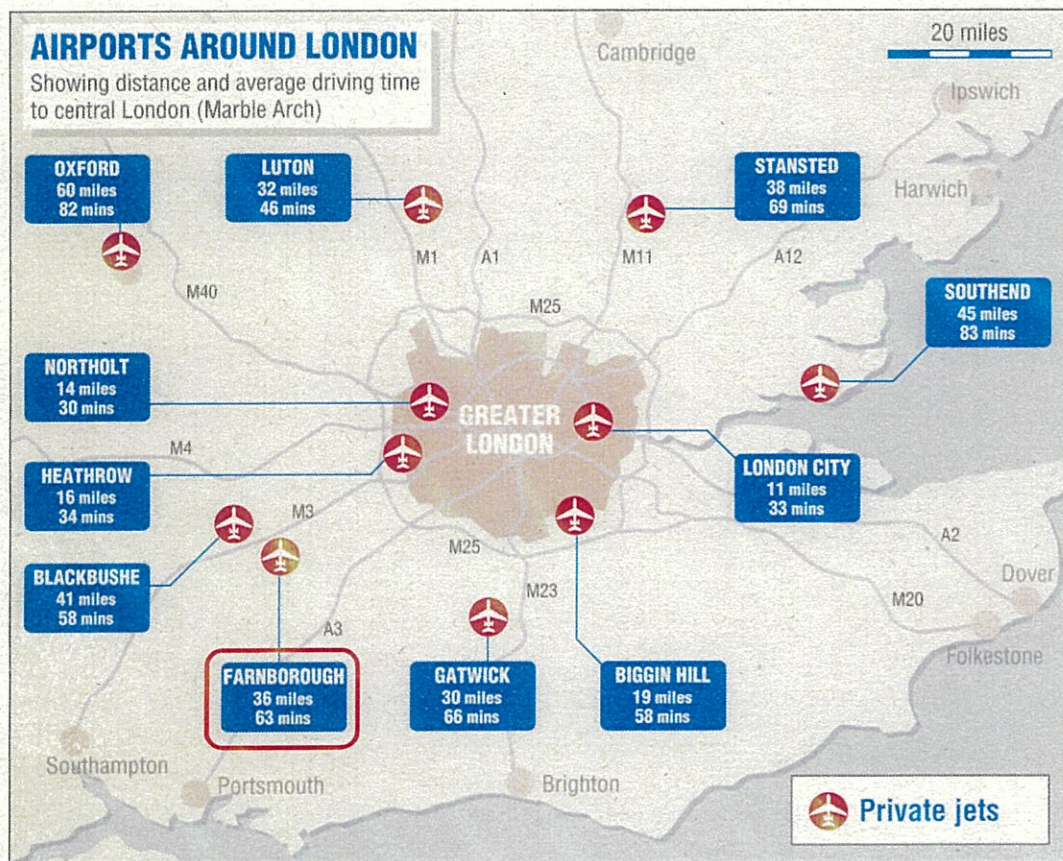
空港内または空港隣接地を拠点として、航空機とその運航業者などに運航に係る関連サービスを提供する事業者。加えて、機内ケータリングやレンタカー、パイロットと乗務員用の休憩所、乗務員と乗客向けのホテル予約などのコンシェルジュサービスなど、さまざまな補助サービスを提供する場合もある。

point

充実したFBO*施設の存在

ビジネスのため、プライバシーのため、ロンドンのために造られた空港。

航空機保管スペース、乗客・乗務員シャワー、乗務員ジム、スピーディーな出入国審査、敷地内の税関・出入国審査、ペットトラベル制度、完全なプライベートスクリーニング施設、会議室、敷地内のラグジュアリーで現代的なホテル等が完備。ロンドンへは、鉄道で30分



出典 : <https://images.app.goo.gl/ZQTDJhgFrVnSqGH56>

近年の動向

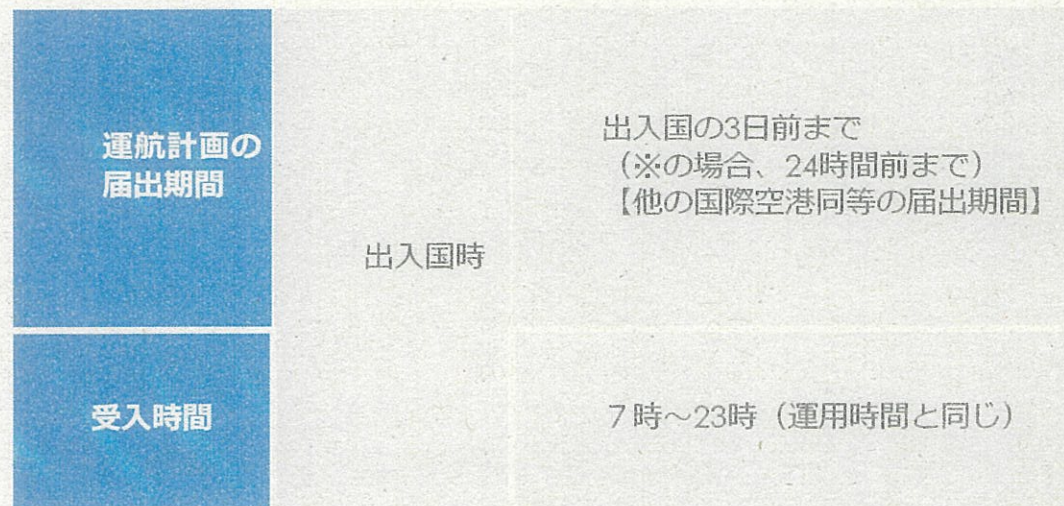
関西3空港懇談会におけるBJ推進、国際化の合意

国際化に向けたスケジュール

- 2023年
 - 国内・国際一体型新ターミナル整備事業者の決定
- 2025年春
 - 新ターミナル供用開始
 - 国内線の発着枠を拡大（1日最大80回→120回）
 - 国際チャーター便の運用開始
- 2030年(前後)
 - 国際定期便の運用開始

出典：神戸市
<https://www.city.kobe.lg.jp/a11380/kurashi/access/airport/index.html>

神戸市の要望

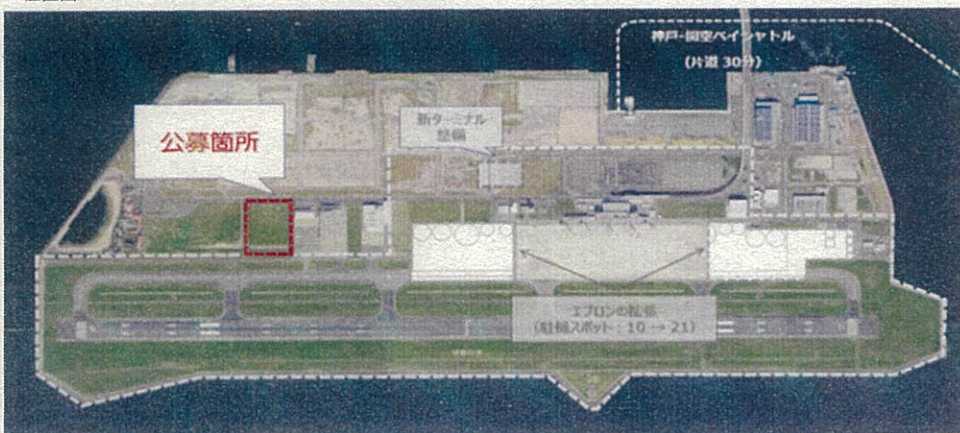


※商用のため緊急止むを得ない事情がある場合

出典：神戸市港湾局資料を元に作成

空港島におけるプライベートジェット関連事業者の公募（2023.6）

- ・事業用定期借地権設定契約
- ・期間：10年以上50年未満
- ・面積：最大30,000㎡（最低申込面積20,000㎡以上）
- ・2025年3月末からプライベートジェットの受入対応を行うこと。施設の建設については、土地の引渡しの日から2年以内に着手すること。
- ・位置図



出典：神戸市 <https://www.city.kobe.lg.jp/a11380/233488009087.html>

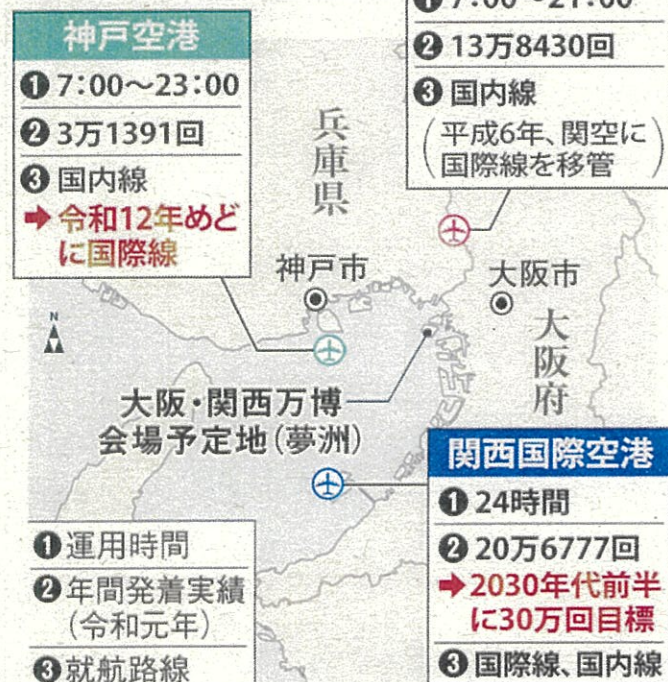
採択者なし

ただし、神戸市港湾局によると、時期は未定であるものの、再公募も視野に入れて必要な検討を進めているとのこと

ビジネスジェット活用の可能性

神戸空港の優位性

関西3空港の運用状況と合意内容



Point

BJ受け入れの余力が十分ある

一般的に、滑走路1本につき、1時間あたり20~30回程度の発着が可能とされている(定期旅客便)。8時間程度の運用時間があれば、神戸空港の発着枠の拡大を踏まえても、余力を持った旅客便の運航が可能な状況

Point

インバウンド需要の拡大(見込み)

大阪・関西万博の開催というインバウンドへの機運の高まりに加え、IR(統合型リゾート)の実現も控えている

日本における空の玄関口になり得る



出典：google map * 神戸空港～1,500kmの同心円

提案

富裕層の心を掴む。海上空港の利点を活かす。観光資源を掘り起こす。

富裕層の心を掴む

- ✓ BJは、**富裕層向けの交通サービス**
- ✓ 富裕層が最も重視するポイントの1つは、**プライバシーの確保**
- ✓ 富裕層が何に価値を置くかを分析し、いかに富裕層に利用したいと思ってもらうかが重要

海上空港の利点を活かす

- ✓ 海上空港という点に着目すれば、**24時間運用も可能**
- ✓ 国際化を契機に、早急に**24時間化のロードマップを敷き、BJを常に受け入れられる体制を目指すべき**

常設のCIQを設置

- ✓ BJを利用する経営者は分刻みのスケジュールで生きている
- ✓ **有効的な時間の活用が重要**
- ✓ BJを利用する海外富裕層を神戸空港に導くには、必須の条件

観光資源開発

- ✓ 空港インフラの整備だけでビジネスジェット需要を開拓することには限界がある
- ✓ **神戸の価値をどのように上げるか、関西の需要をどう分けるかという視点**
- ✓ 神戸の魅力ある観光資源の発掘に引き続き取り組むべき（例：ウェルネス）

官民連携によるアテンド体制

- ✓ 富裕層は、通常の観光では体験できない**非日常的かつ、エクスクルージブな体験を求めている**
- ✓ 富裕層向けのおもてなしのため、**官民が緊密に連携の上、最適なアテンド体制を構築すべき**